

川崎病に対する免疫グロブリン療法の検討 －再発例の発生状況調査－

古庄巻史¹⁾ 中野博行²⁾ 田村時緒³⁾ 神谷哲郎⁴⁾ 奥野光祥⁵⁾
横山達郎⁶⁾ 馬場国蔵⁷⁾ 馬場 清⁸⁾ 森 忠三⁹⁾ 城尾邦隆¹⁰⁾

要約：アスピリン(ASA)療法またはガンマーグロブリン(GG)療法をうけた川崎病患児の川崎病再発率をアンケート調査した。表記10施設で加療をうけた川崎病患児351例にアンケートを配布し、204例(58.1%)からの回答があった。川崎病初発から4~7年のfollow upを行い、ASA療法群46例中4例(8.7%), GG療法群152例中6例(3.9%)の再発をみた。再発は大部分が4年以内に起り、GG 400mg/kg(5日間)の治療をうけたものの再発はみられなかった。

見出し語：川崎病の再発 ガンマーグロブリン療法、アスピリン療法、アンケート調査

〔目的と対象・方法〕

川崎病急性期におけるGG療法が頻繁に行われるようになったが、GG療法をうけた川崎病患児が再び川崎病に罹患する率が高いのではないかとの指摘があり、川崎病再発率のアンケート調査を実施した。われわれは1983年4月から1986年4月まで表記10施設において、川崎病に対するGG療法の検討を行った。この際、対象となった患児351例に全てアンケートを郵送し、再発率を調査した。

〔アンケート結果〕

1) 回収率と回答者の内訳

アンケートには204名の保護者から回答があり、

回収率は58.1%であった。急性期の治療法別にみた回収状況は表1に示した。

2) 回収症例のfollow up 完了年数

回収症例が川崎病に罹患(初発)してどれくらいすでに経過していたかについて調査した結果を表2に示した。4年たったもの198例、5年118例、6年61例、7年17例であった。

3) 再発症例

再発例は計10例(うち1例は再発および再々発)で、初発時の年齢、性別、治療法、治療開始病日、冠動脈病変の有無、再発時年齢、再発までの月数は表3に示した。治療法別にみるとASA療法では4例、GG療法では100mg/kg(5日間)で4例、

1) 小倉記念病院、現N T T九州病院、2) 静岡県立こども病院、3) 天理よろづ相談所病院、

4) 国立循環器病センター、5) 和歌山赤十字病院、6) 近畿大学医学部、7) 神戸市立中央市民病院、

8) 倉敷中央病院、9) 島根医科大学、10) 九州厚生年金病院

200mg/kg(5日間)で2例、400mg/kg(5日間)では0であった。

4) 再発症例の経過

初発から再発までの年数について検討してみると10例中9例が3年半以内に再発していた。従って初発から4年で線を引いて再発調査をすると、殆どの症例がその中に入ることになる(図1)。

5) 治療法別、性別の再発率

治療法別にみるとASA治療群では46例中4例(8.7%)、GG療法群では152例中6例(3.9%)、計198例中10例(5.1%)であった。男女別では、男6(5.3%)、女4(4.8%)であった(表4)。

考 按

GG療法をうけた川崎病患児では川崎病の再発が起りやすいのではないかとの指摘があり、今回、ASA療法をうけたものとの再発率の比較検討を行った。アンケート調査紙の回収率は351例中204例(58.1%)であり、この種のアンケート調査では回収率は良かった。

ASA療法をうけたもの46例中4例(8.7%)、GG療法をうけたもの152例中6例(3.9%)にみられ、むしろASA療法群に再発率が高かった。GG療法群では100mg/kg(5日間)に4例、200mg/kg(5日間)に2例再発がみられたが、400mg/kg(5日間)には再発者はいなかった。このことは再発率もGGにdose-dependencyがあるのかもしれない。川崎病の再発はほぼ4年以内に起ることが多いという結果がえられたが、再発調査は初発以後4年までfollowすれば十分のように思われた。

厚生省川崎病研究班の調査では再発率は3~4%と今回の率より低率であったが、再発を起こし

たものは恐らく初発の際に治療をうけた施設に再び受診したものと思われ、その病院からのアンケート調査に確実に応じたために高率になった可能性もある。

表1 急性期治療法別回収状況

急性期治療		アンケート数	回収数
アスピリン		84	46 (54.8)
ペニロン	100 mg/kg	32	20 (64.2)
	200 mg/kg	139	83 (59.7)
	400 mg/kg	85	49 (58.4)
	小計	256	153 (59.8)
再発例		6(8)	4* (66.7)
不全例		5	2 (40.0)
計		351	204 (58.1)

*初発時ASA治療であった。

表2 回収症例のfollow up 完了年数

	症例数	follow up 完了年数(年)			
		4	5	6	7
アスピリン	46	46	22	19	7
ペニロン	100	20	20	20	7
	200	83	83	30	6
	400	49	49	46	29
	小計	152	152	96	42
合計	198	198	118	61	17

表3 再発した症例

No	初発時					再発時	
	性	年齢	治療法	治療開始日	冠動脈狭窄	年齢	再発までの月数
1	♀	3M	ASA	5	N	1Y 5M	14M
2	♂	10M	ASA	5	N	5Y 5M	55M
3	♂	1Y2M	ASA	2	N	2Y 6M	16M
4	♂	1Y6M	ASA	6	N	2Y 6M	12M
5	♂	3M	GG100×5	5	N	6M	3M
6	♂	1Y1M	GG100×5	5	N	4Y 2M	37M
7	♀	1Y1M	GG100×5	5	AN _s	1Y 9M	8M
8	♀	1Y8M	GG100×5	6	N	3Y 6M	22M
9	♀	10M	GG200×5	3	N	1Y 7M	9M
10	♂	3Y8M	GG200×8	6	N	2Y 6M	11M
						3Y11M	3M

図1 follow up 別 再 発 率

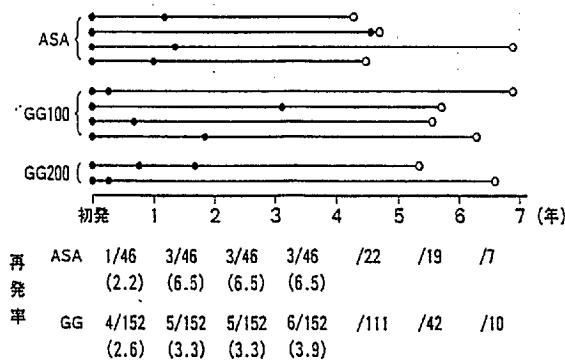


表4 男女別再発率

		follow up 症例			再 発 例		
		男	女	合計	男	女	合計
アスピリン		28	18	46	3 (10.7)	1 (5.6)	4 (8.7)
ベニロン	100	8	12	20	2 (25.0)	2 (16.7)	4 (20.0)
	200	49	34	83	1 (2.0)	1 (2.9)	2 (2.4)
	400	29	20	49	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	小計	86	66	152	3 (3.4)	3 (4.5)	6 (3.9)
合 計		114	84	198	6 (5.3)	4 (4.8)	10 (5.1)

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文書認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります ↓

要約:アスピリン(ASA)療法またはガンマーグロブリン(GG)療法をうけた川崎病患児の川崎病再発率をアンケート調査した。表記 10 施設で加療をうけた川崎病患児 351 例にアンケートを配布し,204 例(58.1%)からの回答があった。川崎病初発から 4~7 年の follow を行い,ASA 療法群 46 例中 4 例(8.7%),GG 療法群 152 例中 6 例(3.9%)の再発をみた。再発は大部分が 4 年以内に起り,GG400 mg/kg(5 日間)の治療をうけたものの再発はみられなかった。